

学習の森

だより

No.71

『安中の100周年』

ふるさと人物伝③「磯貝雲峰」

学習の森 文化財係

今回は、夭折の詩人「磯貝雲峰」を紹介いたします。

雲峰は、本名を由太郎といい、慶応元年（一八六五）6月8日、碓氷郡下増田村百石の内田仁八郎とムラ夫妻の三男として生まれました（母ムラは、郷原の磯貝姓で後妻のため雲峰が初子）。異母兄二人、異母姉一人と実弟兵三郎（雲峰の死後その養子となって磯貝家を継ぐ）の5人兄弟でした。実母ムラは、雲峰が4歳の時に亡くなり、継母に育てられますが、14歳で実母の実家である磯貝家の養子となります。雲峰の筆名は、故郷の妙義峰の白雲山からつけたと云われています。幼い頃から神童と呼ばれるほどの秀才だった雲峰は、学問で身を立てたいという強い希望を持っていました。そして細野東小学校の校長であった柏木義円（非戦の先覚者）に導かれ、郷土出身の偉人である新島襄が開いた同志社英学校普通科二年に明治18年編入しました。奇しくも、学費が足りず同校を一度退学していた柏木義円も同志社に復学することになり、二人は、同級生となりました（雲峰20歳義円25歳）。

同志社で文学に目覚めた雲峰は、同じ文学を志す徳富蘆花と知り合い親友となりました。そして



磯貝雲峰(由太郎)

彼らと歌人の池袋清風が主催する案山子の舎に入り和歌を学び始めました。この頃の雲峰の学校生活の様子は、蘆花の小説「黒い眼と茶色の目」の中に垣間見えます。その中に蘆花が失恋による荒れた生活の果てに同志社を退学することを知った雲峰が、自分は貧乏だからこれで勘弁して欲しいと、うどんをご馳走して蘆花との別れを惜しむ場面が出てきます。雲峰の生家は、名主を務めた素封家でしたが、遠い京都に学ぶ雲峰は、実家から十分な学資を得ることができず、学資を稼ぐため同志社の門番や受付をしながら勉強しなければなりません。雲峰は、実家への手紙の中で「私が望む物は書物であり、食物より衣服より欲しいのは書物です。御地の若者が芝居や浄瑠璃を好むように私は、書物を好みます。どうか書物を買うお金を送って欲しい」と懇願しており、学費に関する強い情熱が伺えます（つづく）。

守ろう
文化財



平成23年度「文化財愛護ポスター」
優秀作品（敬称略）
島谷 友梨菜（西横野小6年）

機織り講座

前回好評だった機織り講座の2回目です。

日程▼3月4日(日)全員参加

10日(土)・11日(日)一組目制作

17日(土)・18日(日)二組目制作

時間▼午前10時～正午

場所▼生涯学習施設 創作工房3

講師▼坂田 美波氏

内容▼ランチョンマット作り

定員▼10名(先着順)

材料費▼1,000円

申込み▼ふるさと学習館まで、2月16日(木)から24日(金)まで

にお電話もしくは受付にて直接お申し込みください。

第11回企画展 【3月4日まで開催中】

ふるさとの至宝 ～安中市の文化財～

連続講演会 13時30分～15時30分

第4回 1月29日(日)

くらしの中の文化財 神宮善彦氏

第5回 2月12日(日)

中山道松井田宿・阪本宿 萩原榮司氏

第6回 2月26日(日)

安中小学校事務日誌と近代の教育 森田秀策氏

※企画展終了後、3月5・7・8日(月・水・木)と展示替えのため、ふるさと学習館のみ臨時休館となります。生涯学習施設は通常どおりです。

問い合わせ先▶
安中市学習の森 ふるさと学習館
Tel.027-382-7622 Fax.027-382-7623
Mail: furusato@des.city.annaka.gunma.jp